

事故発生は、
清潔野だけでは
ありません！

医療事故情報収集等事業

医療事故情報収集等事業

医療
安全情報

No.38 2010年1月 ◆ ◆ ◆ ◆

清潔野における注射器に準備された薬剤の取り違え

事例 1

外来処置室で皮膚生検術を行うため、キシロカイン注射液と0.05%w/v%マスキン水を注射器に準備したが、2つの注射器には薬剤名を識別する情報がなかった。慣例として、外来処置室では、0.05w/v%マスキン水が入った注射器をピーカーに立てていたが、手術室では、キシロカイン注射液が入った注射器をピーカーに立てて準備していた。医師は、ピーカーに立てて準備されている注射器にはキシロカイン注射液が入っていると思い、誤って0.05%w/v%マスキン水を注射した。

事例 2

カテーテル検査において、注射器に準備されたオムニカインとフラッシュ用のヘパリン生食が清潔野に置いてあった。医師がヘパリン生食を投与するところ、オムニカインを投与したため、患者は徐脈傾向となった。最初、医師は、オムニカインが入った注射器に22Gの針を付け目印として識別していたが、局所麻酔後にシリンジから針を外し清潔野にシリンジを置いたため、ヘパリン生食が入った注射器と混同した。

総合評価部会の意見

- ・注射器に薬剤を準備する際は、使用者が直前に準備することを原則とする。
- ・やむを得ず事前に注射器に薬剤を準備する際は、容易に識別できるようにする。
- ・消毒薬とその他の薬剤を類似の容器に準備しない。



阪大病院では次のような対策を推奨しています

- ・手術部など清潔エリアで薬剤を使用する場合には、その部門共通の**マーキング**を行う
- ・非清潔エリアでは、薬剤を準備したシリンジには、必ず、**①薬剤名、②作成日時、③患者氏名、④*時間流量、⑤*開始・終了時刻** (*該当する場合)を**明記する**
- ・記載がよくわからない・疑わしい場合は、**使用しない!**
- ・**消毒薬とその他の薬剤を類似の容器に準備しない!**
⇒他院で**死亡事故**が発生しています!!